

## 【地域ICT振興型研究開発 3課題】

ICTの利活用によって地域貢献や地域社会の活性化を図るために、地域に密着した大学や、地域の中小・中堅企業等に所属する研究者が提案する研究開発課題に対して研究開発を推進。

課題名	研究代表者	研究分担者	概要	期間
無人航空機を利用した医療過疎地域における緊急血液検体搬送の研究開発	貞森 拓磨 (広島大学)	住吉 泰士 (株式会社NTTドコモ) 後藤 哲博 (モバイルクリエイティブ株式会社) 宮内 英樹 (インフォコム株式会社) 小野 俊二 (ci Drone株式会社)	医療過疎地域における患者緊急時の対応は医療スタッフに負荷を与える。老健施設棟など検査機器がない施設で急患が発生した場合、検体採取後、検査機器がある医院まで搬送し検査を行う必要がある。本研究開発は、この緊急時における検体の搬送を無人航空機によって代替することにより、施設と医院間の人的移動を省略することを検討するものである。本研究は、緊急時における検体搬送を、これまで人手によって行ってきた部分を自動化できる可能性を秘めている。	1か年度
防犯カメラネットワークでのプライバシーを保護した人物対応付け手法の研究開発	岩井 儀雄 (鳥取大学)	西山 正志 吉村 宏紀 (鳥取大学)	防犯カメラの映像はプライバシーの問題があり、クラウドサーバに利用するには心理的・法的に大きな障壁がある。特に、通信回線やサーバでのデータ漏えい、個人が特定されるのではないかなどが問題となっている。本研究では、カメラネットワーク端末で撮像された人物画像を暗号化してクラウドサーバに送り、暗号を復号せずにプライバシーを保護した状態でカメラ間での人物対応付けを行う手法を研究開発する。	1か年度
プロアクティブマインドを育む感覚-運動ニューラルネットワークICT空間の研究開発	小柴 満美子 (山口大学)	-	本研究開発では、次世代地域起業家育成を目標とする産学公連携講義「テクノロジーxアート」の学生作品技術に基づき、感覚-運動、情動、動機の脳神経を刺激し回路形成を促す認知症療育システム・プログラムの開発と医学的検証、実用展開への橋渡しを目指す。さらに応用開発対象として、高齢や気分障害による認知機能の低下に対して、ヒトや代替ロボット等の働きを含めた総括プログラム開発を行い、社会実装を促進する環境システムの条件を見出す。	1か年度